

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用してください。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意ください。

[成果情報名] パプリカの青枯病対策のための接ぎ木栽培に適する品種の組合せ

[要 約] 赤色系パプリカの接ぎ木栽培では、穂木「フェラーリ」と台木「台パワー」を組み合わせることで、従来品種である「スペシャル」の自根栽培を上回る商品果収量が得られる。黄色系パプリカの接ぎ木栽培では、穂木「フェアウェイ」と台木「台パワー」もしくは「台助」を組み合わせることで、従来品種である「フェアウェイ」の自根栽培と同等以上の商品果収量が得られる。

[部 署] 山形県庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室

[連絡先] TEL 0234-91-1250

[成果区分] 普

[キーワード] 果実品質、果皮色、平均果重、台パワー、台助

#### [背景・ねらい]

パプリカの土耕栽培において問題となっている青枯病の対策技術としては、化学農薬による防除が困難であるため抵抗性台木を用いた接ぎ木栽培に対する期待が高い。しかし、青枯病抵抗性台木を用いた接ぎ木栽培の場合、自根栽培に比べて果実の内部品質に差は見られないものの、平均果重がやや小さくなるのが指摘されている。そこで、青枯病抵抗性台木を用いた接ぎ木栽培でも、従来品種の自根栽培と同等以上の収量、果実品質が得られる品種の組み合わせについて検討した。

#### [成果の内容・特徴]

##### 1. 赤色系品種（表1、表2）

- (1) 穂木「フェラーリ」と台木「台パワー」を組み合わせた時の商品果数と商品果の平均果重は、従来品種である「スペシャル」の自根栽培を上回り、果皮色、縦横比も同程度であるため有望な組み合わせである。
- (2) 従来品種である「スペシャル」を穂木に、「台パワー」を台木に用いた組み合わせでも、商品果数はほぼ同等であり、商品果の平均果重も5%程度の減少であるため、実用性が高い。
- (3) 「クプラ」は、「スペシャル」に比べて商品果数が多いものの、平均果重が小さく、果皮色や縦横比が異なる。

##### 2. 黄色系品種（表3、表4）

- (1) 穂木「フェアウェイ」と台木「台助」を組み合わせた時の商品果数と商品果の平均果重は、従来品種である「フェアウェイ」の自根栽培に比べて、商品果数が多くなり、平均果重はほぼ同等であるため、有望な組み合わせである。
- (2) 穂木「フェアウェイ」と台木「台パワー」の組み合わせでも、「フェアウェイ」の自根栽培とほぼ同等の商品果数と商品果の平均果重が得られるため、実用性が高い。
- (3) 「コレッティ」は、「台パワー」を台木とした接ぎ木栽培でも、平均果重が「フェアウェイ」の自根栽培よりも13%大きく、果皮色や縦横比が異なる。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 県内青枯病菌株に対する「台パワー」と「台助」の抵抗性と導入上の留意点、種子の入手方法については、「平成21年度新しい技術の試験研究成果（普及指導資料及び行政資料）のP\*\*\*~+++を参照のこと。
2. 「台パワー」と「台助」を用いた接ぎ木管理方法については、「平成21年度新しい技術の試験研究成果（普及指導資料及び行政資料）のP103~104を参照のこと。

[具体的なデータ]

表1 収量構成要素 (赤色系品種) 20株調査

	総収量		商品果		商品果率 (重量%)	平均 果重 (g)
	個数	重量	個数	重量		
	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)		
フェラーリ+台パワー	5.05	776	3.78	776	74.2	171
クプラ +台パワー	6.08	880	4.80	726	82.5	151
スペシャル+台パワー	5.62	789	4.45	592	63.7	139
スペシャル自根	5.53	797	3.23	539	67.6	167

表2 果実形質<sup>※1</sup> (赤色系品種)

	果径			果皮色 <sup>※2</sup>		糖度 (Brix%)	酸度 (%)	果実 硬度 (kg)
	縦径	横径	縦横比	a*	b*			
	(mm)	(mm)	(縦/横)	(-60~+60)	(-60~+60)			
フェラーリ+台パワー	87.2	76.0	1.15	28.0	21.1	6.9	0.18	1.48
クプラ +台パワー	83.3	81.8	1.02	26.5	20.2	6.9	0.17	1.43
スペシャル+台パワー	83.3	75.2	1.11	31.2	22.4	7.1	0.17	1.48
スペシャル自根	81.3	76.6	1.06	31.5	21.9	7.0	0.18	1.49

※1 7~12月まで1週間ごとに3果ずつ調査

※2 色彩色差計 (CR-400) にて測定。a\*: 数値が大きいほど赤い。b\*: 数値が大きいほど黄色い。

表3 収量構成要素 (黄色系品種) 20株調査

	総収量		商品果		商品果率 (重量%)	平均 果重 (g)
	個数	重量	個数	重量		
	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)		
コレッティ +台パワー	5.82	910	3.95	694	76.3	176
フェアウェイ+台パワー	6.11	866	4.73	708	81.7	150
フェアウェイ+台助	7.51	1075	5.25	808	75.1	154
フェアウェイ自根	6.23	905	4.51	682	75.3	151

表4 果実形質<sup>※1</sup> (黄色系品種)

	果径			果皮色 <sup>※2</sup>		糖度 (Brix%)	酸度 (%)	果実 硬度 (kg)
	縦径	横径	縦横比	a*	b*			
	(mm)	(mm)	(縦/横)	(-60~+60)	(-60~+60)			
コレッティ +台パワー	76.7	80.2	0.96	-2.98	43.4	6.0	0.16	1.38
フェアウェイ+台パワー	80.2	73.6	1.09	-0.16	47.3	6.2	0.16	1.43
フェアウェイ+台助	79.9	74.2	1.08	-0.96	47.2	6.4	0.17	1.30
フェアウェイ自根	81.9	74.8	1.10	-2.07	48.2	6.2	0.16	1.37

※1 7~12月まで1週間ごとに3果ずつ調査

※2 色彩色差計 (CR-400) にて測定。a\*: 数値が大きいほど赤い。b\*: 数値が大きいほど黄色い。

<試験の概要>

栽培規模 1区 10株 2反復

栽培概要

播種日: 台木 2月 2日、穂木 2月 16日、自根区 3月 3日

接ぎ木日 (定植日): 3月 11日 (4月 22日)

栽植距離: うね幅 1.8m、株間 30cm、2条植え (370株/a)

定植直後はグリーンマルチ被覆。7月以降は全面白黒マルチ被覆

整枝着果: 主枝 2本仕立て 側枝 1節摘心 着果第3節まで摘果。主枝のみ着果。

施肥量: 元肥; N-P-K(kg/a) 2.0-2.1-2.0, 追肥; N-P-K(kg/a) 0.5-0.5-0.5

灌水方法: タイマー、電磁弁、ドリップチューブによる点滴灌水

[その他] 研究課題名: トウガラシ用台木品種によるパプリカの土壌病害回避技術の確立

予算区分: 国庫

研究期間: 平成 21 年度 (平成 20~21 年度)

研究担当者: 古野伸典

発表論文等: 未定